

2014年度 地域間交流促進プログラム(マレーシア)

参加者募集!



平成26年11月5日(水)～15日(土)・11日間

昨年のビザ取得免除などを背景に、訪日旅行者の増加が続くマレーシア。ムスリム市場の玄関口としても、自治体からの注目が集まっている国です。

また一人当たりGDPが1万ドルを超え、順調な経済成長を背景にマーケットとしての魅力も注目されるなど、今後もマレーシアへの関心の高まりが予想されることです。

日本の自治体の活動も増加するマレーシアについて幅広く理解できる研修プログラムをご用意しました。

プログラムのポイント

- マレーシアの政治経済状況・訪日旅行への誘客や地域製品の消費動向の把握など現地最新事情を凝縮
- マレーシア関係省庁・現地自治体などの訪問を通してマレーシアの地方自治を理解
- イスラム振興局はじめとする現地関係機関への訪問を通じて、ムスリムやハラールについて理解
- 現地大学生との文化交流を通じた両国間の理解促進

こんな参加者に最適です

- 国際社会の状況を的確に把握し、幅広い国際業務に対応できる人材を育成したい
- 地元企業のマレーシアへの進出に係る相談を受ける上で、現地の今を把握したい
- マレーシアからの訪日旅行者の誘客、マレーシアへの地域製品の輸出促進のための情報を把握したい
- 今後幅広い交流を実施するため、現地関係者との有益なネットワークを構築したい



日程

11月5日(水)	国内研修(JIAM)
～	・マレーシアの基礎的知識に関する講義
11月7日(金)	・海外オリエンテーション 等
11月8日(土)	移動日(シガポールを経由してマレーシアへ)
11月9日(日)	現地旅行社(ムスリム専門)訪問 クアラルンプール市内視察
11月10日(月)	在マレーシア日本国大使館訪問 マレーシア住宅地方自治省、 文化観光省訪問
11月11日(火)	クアラルンプール市役所訪問 現地イスラム・ハラール関係機関訪問
11月12日(水)	マラヤ大学文化交流 味の素工場視察
11月13日(木)	ジョホールバル市役所訪問 イスカンダル視察
11月14日(金)	タンジュン・ペラパス港視察 シガポールへ移動
11月15日(土)	移動日(日本・羽田空港へ)

見どころ

- ◎ 現地政治・経済情勢、地方自治の理解
大使館、住宅地方自治局、2つの市役所の訪問を通じて、マレーシアの政治経済情勢、地方自治の現状や課題を理解します。
- ◎ イスラム圏に対する理解
ムスリム客専門の現地旅行社、イスラム教やハラール産業を振興する政府関係機関の訪問を通じて観光客誘客や地域産品輸出に向けたノウハウを習得します。
- ◎ マレーシアの政策等の把握
マレーシアの観光施策、イスカンダル地域の開発政策、タンジュン・ペラパス港の戦略について理解を深めます。
- ◎ 現地における日系企業の状況の把握
日系スーパーやハラールに対応した食品関係の日系企業、港湾施設フリーゾーン内における日系企業を訪れ、ビジネス環境や課題、今後の展望を理解します。
- ◎ 日本・マレーシア間の文化交流
マラヤ大学において日本語を専攻する大学生との交流を通じて、現地の若者と文化や生活習慣等に関する相互理解を促進します。
また、日本留学経験者との意見交換会も予定しています。

※ 訪問先は今後の調整で変更になる可能性があります。予めご了承ください。

■ 対象者

- ◎ 地方自治体職員 (アジア地域に駐在する駐在員を含む)
- ◎ 地域国際化協会職員
- ◎ 地方自治体の推薦を受けたNPOなど民間団体・国際機関の職員

■ 留意事項

- ◎ JIAM(滋賀県大津市)にて集合、羽田空港にて解散予定。
- ◎ 現地での行程に係るバス借上代、通訳費はクリアが負担します。

■ 申込締切

平成26年9月1日(月)

■ 参加費用

35万円程度

■ 定員

20名程度(定員になり次第締め切ります)

平成26年度 地域間交流促進プログラム(マレーシア)

実施要領

1 目的

本プログラムは、海外への訪問・視察及び当地の人々との文化交流や意見交換等を通じて、日本とマレーシアとの政治経済・文化交流等における現状と課題の理解を多方面から図り、今後の地域間交流の契機とするとともに、日本の地方公務員及び地域国際化協会職員等の国際感覚の涵養を図ることを目的とする。

2 実施主体

- (1) 一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）
- (2) 全国市町村国際文化研修所（JIAM）
- (3) 地域国際化協会連絡協議会

3 期間

平成26年11月5日（水）から11月15日（土）までの11日間

国内研修：11月5日（水）～11月7日（金）（JIAMで実施）

海外研修：11月8日（土）～11月15日（土）（マレーシアを訪問）

※ 原則として国内研修又は海外研修のどちらか一方のみの参加はできません。ただし、海外に勤務する地方自治体職員については、海外研修のみの参加も可能です。

4 プログラムのポイント

(※ プログラム内容は、今後の調整により変更になる場合がございますので、予めご了承ください。)

(1) 国内研修

- ① マレーシアの一般事情（生活・文化・地理・歴史・宗教・政治・行政制度等）に関する基礎的理解
- ② 自治体事例紹介（経済・文化交流等）
- ③ 日本とマレーシアの経済交流に関するレクチャー
- ④ 海外研修で実施する交流行事の事前準備 等

(2) 海外研修

- ① 政治・経済等に関する現地情勢の把握、地方自治の理解
 - ・在マレーシア日本国大使館への訪問、ブリーフィングを通して、現在のマレーシアの政治経済状況について理解を深める。
 - ・マレーシア政府において地方自治制度を所管する住宅地方自治省を訪問し、マレーシアの地方自治制度の現状と課題等について説明を受け、その概況を理解する。また、クアラルンプール及びジョホールバル市において市庁舎や行政施設の訪問・視察を行い、首都として発展を続けるクアラルンプール及びクアラルンプール以外の地方都市それぞれの自治体の実務レベルでの課題や今後の政策・展望について理解を深めるとともに、今後の自治体間交流の可能性を探

る。

② イスラム圏における訪日観光誘客・地域産品等の販路拡大に関する理解

マレーシアは一人当たりGDPが1万ドルを超え、順調な経済成長を続けるとともに、日本食レストランの進出が増加するなど、日本からの農林水産物・食品の輸出先として注目を集めている。また、昨年のビザ取得免除などを背景に、日本への旅行者が17万人を超え過去最高に達するなど、旅行先としての日本の人気から、今後も旅行者の拡大が期待されている。ムスリム専門の現地旅行社への訪問を通じて、観光市場概要・旅行者獲得のためのノウハウ等、観光客誘客を促進するための理解を深める。また、イスラム振興局・ハラル産業開発公社を訪問し、マレーシアの消費者の特性や市場の状況、ムスリムやハラルに対する理解及び今後の地域産品の販路拡大に関する理解を深める。

③ マレーシアの政策の把握（観光政策、イスカンダル開発、港湾）

マレーシア文化観光省、イスカンダル開発公社、タンジュン・ペラパス港への訪問、視察を通して、長期移住者政策やイスラム圏からの観光客誘客で注目を浴びるマレーシアの観光施策、近年目覚ましい発展を遂げているイスカンダル地域の開発状況、急成長を遂げているタンジュン・ペラパス港の戦略等について理解を深める。

④ 現地における日系企業の状況の把握

安定した政治体制や整ったインフラ、順調な経済成長などを背景にマレーシアに進出している日系企業は1,400社に及んでいる。日系スーパー、ハラルに対応をした日系食品関係の工場、タンジュン・ペラパス港のフリーゾーン内にある日系企業等、様々な形態で現地に進出している日系企業・工場を訪問し、マレーシアにおけるビジネスの現状や戦略、進出にあたっての課題、現地市場やインフラの整備状況等について理解する。

⑤ 日本・マレーシア間の文化交流

1981年から始まった東方政策の影響もあり、マレーシアの大学には日本への留学向けの日本語コースが設けられ、30年以上続くなど、マレーシアでは日本語教育が盛んに行われてきた。マレーシアの最高学府として知られるマラヤ大学（クアラルンプール市内）において日本語を専攻する大学生との文化交流を実践し、両国の文化慣習等に関する相互の理解を深める。

5 対象

- (1) 地方自治体（都道府県、政令指定都市及び市区町村）の職員
- (2) 地域国際化協会の職員
- (3) 地方自治体の推薦を受けたNPOなど民間団体・国際機関の職員等
- (4) アジア地域に駐在する地方自治体職員

※ 参加者の語学能力は問いません。

6 派遣人員

20名程度（定員となり次第締め切らせていただきます。）

7 参加費用

(1) 参加費用

約 35 万円／人（概算）

- 上記の参加費用は国内・海外研修を通じて参加する場合の金額です。
- 参加人数、空港税、航空保険料、燃油サーチャージ等の改定により参加費用は変動する場合があります。
- 地域国際化協会の職員については、地域国際化協会連絡協議会から参加費用の 1/2 以内の額を助成する予定です。

●参加費用に含まれるもの	●参加費用に含まれないもの
<ul style="list-style-type: none">・国内研修における研修費、食費、研修生活動費・J I AMから関西国際空港までの交通費・往復分の海外航空運賃・海外における移動費・行程中の宿泊料金・行程中の食費（既定の食事以外の飲食代など個人負担に属するものおよび (2) に記載するものを除く。）・視察先入場料（必要な場合）・空港税及び航空保険料	<p>左記以外の費用。主なものを例示すると、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・各所属団体から J I AMまでの交通費・解散場所（羽田空港）から各所属団体までの交通費・パスポート発給手数料（新規発行が必要な方など）・自由行動に係る経費・海外旅行保険料 <p>（推奨：必要に応じて各自手配してください。）</p>

(2) 主催者（自治体国際化協会）が負担する経費

- ・現地での移動用バスの借上げ費用
- ・通訳、日本語ガイド費用
- ・現地での意見交換会等の開催にかかる経費

(3) 参加費の払込方法

- ① 国内研修における研修費、食費、研修生活動費：J I AMより請求額及び支払方法について別途ご連絡します。
- ② ①を除く参加費：本事業の委託先である旅行会社より、請求額及び支払方法について別途ご連絡します。

8 申込方法

別紙2の「平成26年度地域間交流促進プログラム」参加申込書に必要事項を記入のうえ、パスポートの写しを添えて、下記申込先までE-mailにてお申込みください。

なお、海外に勤務する地方自治体職員で海外研修のみへの参加を希望される方は、参加費用や申込み方法・支払方法が異なりますので、自治体国際化協会シンガポール事務所 担当：松田 (matsuda@clair.org.sg) または三原 (mihara@clair.org.sg) までご連絡ください。

【申込先】

(一財) 自治体国際化協会東京本部 交流支援部 経済交流課 夏秋

TEL 03-5213-1726 E-mail : keishin@clair.or.jp

< 申込期限：平成26年9月1日（月）**必着** >

9 行程

「別紙1」を参照してください。

集合は、全国市町村国際文化研修所（J I AM）、解散は、羽田空港を予定しています。

10 その他留意事項

応募人数や現地事情等により、視察先の変更や、やむを得ず催行できなくなる場合がございます。

11 お問い合わせ先

(1) 海外研修に関するお問い合わせ

(一財) 自治体国際化協会シンガポール事務所
担当：松田、三原
TEL：+65-6224-7927 FAX：+65-6224-8376
E-mail：matsuda@clair.org.sg
mihara@clair.org.sg

(2) 国内研修に関するお問い合わせ

全国市町村国際文化研修所（J I AM）
担当：教務部 角田、堀
住所：〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13-1
TEL：077-578-5932 FAX：077-578-5906
E-mail：t-kakuda@jiam.jp、s-hori@jiam.jp

(3) 申込に関するお問い合わせ

(一財) 自治体国際化協会東京本部
担当：交流支援部経済交流課 夏秋
住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-7
相互半蔵門ビル6F
TEL：03-5213-1726 FAX：03-5213-1742
E-mail：keishin@clair.or.jp

<参考>

平成25年度に実施したプログラム「地域間交流促進プログラム（タイ）」の報告書（概要版）を添付しますので、ご参照ください。報告書（全体版）は、以下のウェブサイトに掲載されています。

「地域間交流促進プログラム報告書（タイ）」

（2013年11月6日～11月16日）

自治体国際化協会 シンガポール事務所 HP （PDF形式）

http://www.clair.org.sg/j/exchange/pdf/TH_program_2013.pdf

■ 行程

(1) 国内研修（全国市町村国際文化研修所（JIAM）〔滋賀県大津市〕）

日数	宿泊先	内 容
DAY 1	11/5 JIAM 泊 [水]	全国市町村国際文化研修所入所 ・開講式、オリエンテーション
DAY 2	11/6 JIAM 泊 [木]	・マレーシアの基礎的知識に関する講義 ・海外オリエンテーション
DAY 3	11/7 JIAM 泊 [金]	・講義 ・ふりかえり

(2) 海外研修（マレーシア、経由地シンガポール）

日数	月 日	内 容
DAY 4	11/8 KL 泊 [土]	【移動日】 SQ619 11:00（関空発）→17:00（シンガポール着） SQ118 18:45（シンガポール発）→19:40（クアラルンプール着） ・結団式
DAY 5	11/9 KL 泊 [日]	【クアラルンプール】 ・ムスリム客を対象とした現地旅行社訪問 ・クアラルンプール市内視察
DAY 6	11/10 KL 泊 [月]	【クアラルンプール】 ・在マレーシア日本国大使館訪問 ・マレーシア住宅地方自治省訪問 ・マレーシア文化観光省訪問 ・意見交換会（日系関係機関）
DAY 7	11/11 KL 泊 [火]	【クアラルンプール】 ・クアラルンプール市訪問、行政視察 ・イスラム振興局（JAKIM）・ハラル産業開発公社（HDC）訪問 ・意見交換会（日本留学経験者）
DAY 8	11/12 JB 泊 [水]	【クアラルンプール～ジョホールバル】 ・マラヤ大学学生との交流事業 ・味の素工場視察 クアラルンプールからジョホールバルへ移動
DAY 9	11/13 JB 泊 [木]	【ジョホールバル】 ・ジョホールバル市訪問 ・イスカンダル開発公社訪問、イスカンダル開発地域視察
DAY 10	11/14 SG 泊 [金]	【ジョホールバル～シンガポール】 ・タンジュン・ペラパス港、フリーゾーン内日系企業等視察 ・イスカンダル内商業施設視察 【シンガポール】 ・解団式
DAY 11	11/15 （日本着） [土]	【移動日】 SQ632 8:00（シンガポール発）→15:30（羽田着） 帰国（羽田空港にて解散）

※ 訪問先は今後の調整で変更になる可能性があります。予めご了承ください。